



第42号  
平成20年8月

発行 NPO 法人小野川と佐原の町並みを考える会  
保存会  
佐原町並み交流館  
お問い合わせ 佐原町並み交流館  
☎ 0478 (52) 1000

町並み案内

十二年

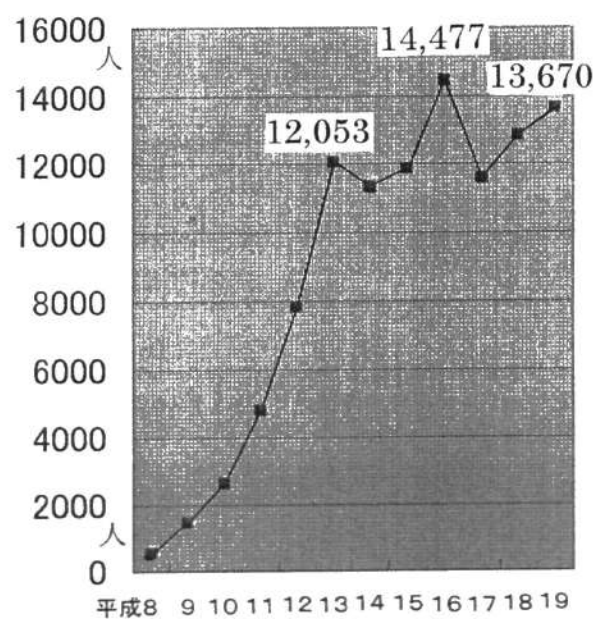
# 新しい夢を 次の世代に託して

年間案内が一人を超えて

二十七年前、佐原市公民館の完成とともに始まった市民講座「郷土歴史教室」の聴講以来、吉田昌司（副理事長）さんの郷土への思いが、自ら呼びかけた「町並みガイド養成」講座を開

設させたのです。佐原の町並みが「重伝建」指定（平成八年十二月十日）を受けることが視界に入ってきた平成八年四月から講座は開始され、もう三カ月後には、受講生たちは当番制で「三菱館」に集まり、挨拶やお茶のすすめ方の実践を

町並み観光案内者数  
過去十二年間の推移



総案内人数 105,069人

## 第四回総会

### 一年の着実な成果をわかりやすく

#### 理事長が写真でたどる



高橋賢一理事長

NPO「小野川と佐原の町並みを考える会」の第四回定期総会が平成二十年五月十三日（火）午後五時より、佐原町並み交流館内二階「多目的室」で開催されました。

吉田昌司副理事長の開会宣言に続き、高橋賢一理事長が挨拶に立ち、この一年をアルバムにしてわかりやすく、「文化の日表彰」「ボンネットバスの運行」「骨董市」「建物公開事業」「バーチャル・リアリティの設置」「研修旅行」等の成果を讃えました。

事業報告は、まちづくり班長林正裕氏が六ページに及ぶ年間の活動を説明しました。この報告も重要と思われるものに限定しなければならぬほど膨大なものでした。例年のNPO活動に加えて、他団体・機関との交流は連日に及ぶ

ほどで、役員の方々に本場に忙しい一年でした。来年は「全国町並みゼミ」が佐原で開催されます。成田市と連携をとりながら着々と準備が進行中で、さらに多忙になることが予想されます。

## 第三二回（二〇〇九年） 全国町並みゼミ

### 佐原・成田大会

平成二十一年十一月十三日、十四日、十五日三日間で開催することに決まりました。いま、本格的な準備に入るための実行委員会のたちあげに理事長をはじめ役員は懸命です。今年の全国町並みゼミは、愛媛県西予市宇和町で十月第二週末に開催されます。

## 佐原の食めぐり

8月9日（土）～17日（日）

「江戸優り、佐原の食めぐり」が四月、五月に続き、おかみさんの夕涼みに協賛して展開されます。閉店時間も夕涼みにあわせて延長されます。前回四、五月の「食めぐり」は、利用者のアンケートでも大好評というものでした。「北総ポーク」もどうぞ味わってみてください。

（のれん班・田中良一班长）



のぼりが目印

## 千産千消を

はじめていました。平成八年の統計によると、六月が三十名、九月が七十名、十月が二十九名、年間五四五名の一年でした。数年ののち、観光客が町の中心を埋めるほどになるとは、誰も予想していませんでした。以後五年間、案内客は毎年、前年比二倍を越し、年間総数は一万人台を下りません。佐原を愛する先輩のみならず、これまでの努力の成果をこれからも生かしていかなければならないと同時に、次の世代の若い方々にこれを確実に手渡していくという課題が残ります。

NPO「小野川と佐原の町並みを考える会」は町おこし事業に加えて、佐原町並み交流館ホール及び三菱館内の展示は年間中断がありません。佐原の魅力を知る良い機会です。皆様のご来館をお待ちしています。事業報告の一部を紹介します。「交流館ホール」

## 佐原町並み交流館を飾る

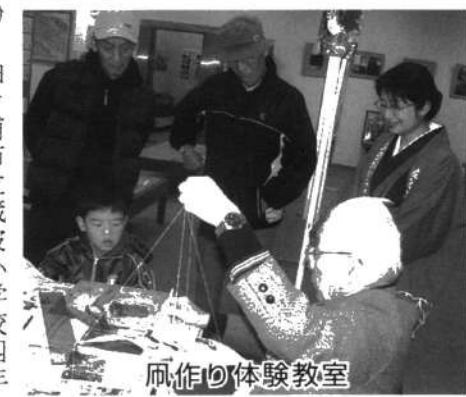
### ふるさと佐原の魅力で一杯です

- 天真正伝香取神道流展
- 佐原の大祭・町内扇子展
- 佐原五月人形めぐり展
- フォトサークル四季彩・佐原の光景写真展
- さつき盆栽展
- 松戸洋画木曜会・さわらスキッチ展
- ドールハウスの世界
- 手づくり佐原山車展
- 佐原幼稚園児灯籠絵作品展
- デジタル写真小江戸佐原展
- 松戸市立第四中学校一年生「川柳」展
- 我孫子市立高野山小学校四年生「校外学習新聞」展



全町内の扇子がそろう

- 三菱館
- 写真で見る佐原の町並み保存十年の歩み
- 野口正博切り絵体験教室
- 藤ヶ崎たつ子蔓工芸体験教室
- 橋本健司・山車水彩画展
- 原田糸子作陶展
- 籠工房・籠谷一雄作陶展
- 樽澤猛彫刻展
- バーチャル・リアリティ・キヤド設置
- 打ち掛け・岩槻人形展示



凧作り体験教室

## 佐原三菱館で観光客とふれあってみませんか？

### 館内案内募集中！

佐原の町並みが常時映像で紹介されている館内で、観光客に建物のある場所を教えてくださいボランティアを募集中です

ふれあいコーナーができました



問い合わせは

受付：毎週木曜・土曜、三菱館にて

☎0478(54)7766

NPO町並み案内ボランティア



# 町並みを歩いて

## 重伝建地区の隠れた魅力を発掘

重伝建地区を歩いていると、道路に面した所だけではなく、目立たない所でも町並みの景観に合わせた改築・修復が行なわれています。

そんな町並みを佐原の基点から辿ってみましょう。

### 佐原町の基点から

おせんべい屋の八木清さんと金物屋の井坂屋さんのT字路の中央にマンホールの蓋があり、その地下には結構大きな井戸があって、その陥没を防ぐための工事がされてあるそうです。

自動車のない時代、小野川の「だし」から下ろされた荷を運ぶ牛馬のための水飲み場があったからです。

また、井坂屋さんの前には「佐原道路町標識元標」の御影石が電柱の下に立っていますから、ここが佐原の町の基点だったことがわかります。

### 清宮利右衛門家

馬場酒造の信号を左折し、下新町の通りに入ってすぐの黒い板塀の屋敷が「清宮利右衛門家」です。門前に石碑があります。

地占八洲東海東  
利根曲折貫其中  
平原何恨雲煙乏  
澤国堪誇蝦菜豊

これは九代目秀堅の著わした「北総詩誌」の巻頭詩です。

(佐原の地は関八州日本の東端にあり、その中を利根川が曲がりくねって流れている。四方が見渡せる平野にありとりたてて景色に目立つ所はないが、湖沼が多く水に恵まれていて川えびや野菜が豊富にとれる)

昭和六十三年に佐原ロータリークラブの寄付によって建てられた碑のうちの一つです。

屋敷は江戸時代後期の名主宅で、木造平屋寄せ棟、土蔵造り。

原の町を訪ねたいと思います。今回の視察研修で得た貴重な見聞を今後の活動に活かしていくつもりですので、今後ともご指導ご鞭撻をお願いいたします。

(真壁町町並案内  
ボランティア事務局)

温かい心配りに感謝  
「佐原の町を知ろう」という



清宮利右衛門家正面

享保十五年(一七三〇)の創業以来より醤油醸造、穀物商、質屋を営んでいました。

秀堅は文化六年(一八〇九)に生まれ、明治十二年(一八七九)に七十才で没しました。三十二才の頃佐原村の名主として村政に貢献し、苗字帯刀を許されました。

## (その二)

学者として「下総国旧事考」「成田山参拝記」「北総詩誌」の諸著作があります。

植田屋荒物店

忠敬橋の際にある荒物屋さんで、創業は宝暦九年(一七五九)母屋は明治二六年、土蔵は明治元年の建物です。

店奥の土蔵二階には「大分県産地直輸入畳表」の看板が残されています。土蔵の棟木は六間の長尺で、一階の入り口右側には子息の使用した補習用のテキスト等が展示されています。

大分白杵市在住の伝統工芸家毛利健氏による竹工芸品とともに、別府から送られてくる竹製品がそろっています。

「三菱館」の斜め前に見える黒い土蔵の店構えの薬局です。始祖は澤田嘉兵衛、安永五年(一七七六)下総国飯岡(いのおか)村(現成田市)に生まれ、江戸などで修行をした後、文化元年(一八〇四)佐原で薬種店を開きました。

加納屋薬局・みごとに往時の姿がよみがえる

「三菱館」の斜め前に見える黒い土蔵の店構えの薬局です。始祖は澤田嘉兵衛、安永五年(一七七六)下総国飯岡(いのおか)村(現成田市)に生まれ、江戸などで修行をした後、文化元年(一八〇四)佐原で薬種店を開きました。



植田屋荒物店店先

店左奥の階段を昇った所には自由に開け閉めできる暖房、防犯を兼ねたスライド板があり、幕末の天狗党の強請の際には、このスライドの戸が有効だったでしょう。

### 町並み案内

## 観光ボランティア・ガイドを生きがいに

その三・宇野順子さんに聞く

佐原小学校に勤務している頃、小島一仁先生が顧問であった「佐原の伝統文化を大切にしたい」に参加しました。

主に、伊能忠敬のフィールドワークが中心で、九十九里の生誕地訪問や観音寺の墓地の研究をしていました。それ以前は忠敬の墓石がどれであるか不明で、この研究会が正しい墓石をつきとめました。

ジャージー橋の復元もこの会の活動の結果できたものです。

教職を退職後、吉田昌司さんの呼びかけで、町並み案内の講習会に参加し、半年ほどの研修をへて、夏の祭礼にはすでに間に合うというスピードぶり。平成八年の「重伝建」指定に間に合っただけで、宇野さんは、もともと佐原の歴史に興味があり、市の図書館に通って「佐原市史」等の資料

同時に、佐原生まれの同僚の先生がよく佐原の話をしてくれていて、耳学問でも結構知識が増えましたので、史跡を見て歩いていったのが役立ちました。

もちろん、吉田さんのあとについて研鑽につとめました。

案内をはじめると、子供たちに教えるのとは違って、なかなか静かに聞いていただけでいいというわけではないので苦労がありました。

宇野さんは、新潟市の生まれですが、町並みの案内をする第一の喜びは「移り住んだ町がこんなに良い町だったと、誇りに思えること」だといいます。

町の人たちとも顔なじみになれ、話しかけてくれる人が増えたのがうれしいとのこと。

町並案内班の「募集キャンペーン」が成功し、佐原で育った方々が沢山応募してくるのを期待しています。



明解な説明が評判の宇野さん

## 観光案内に感謝の礼状

(その3)

次は私がガイドに

先日は正月早々、色々ご配慮いただいた案内をしていただき、おかげさまで大変楽しい下見となりました。

頭の片隅にあった歴史の一部が今回お聞きしたこととなつたおかげに、記憶が新たになつたと思います。

今月末に佐原に行く予定にと

対応していただいたこと、特別にお店の中で見学させていただいたこと、乗り遅れた子どものために船を戻していただいたこと等、短い時間の中ではありますが、子どもたちは佐原の町を守る皆様の温かいハートをしっかりと感じたようでした。

(木更津市立西小学校教諭)

平成十九年二月に復元された土蔵は弘化二年(一八四五)に土蔵倉を改造したもので、約百五十年前の建物が再現されました。

嘉兵衛は隠居後、済斎と称し狂歌師として幾冊かの著作を残しています。文久二年(一八六二)年天狗党騒擾事件の最中、八七才で没しました。

パラペット式看板を取り除き、平成十九年二月に復元された土蔵は弘化二年(一八四五)に土蔵倉を改造したもので、約百五十年前の建物が再現されました。

嘉兵衛は隠居後、済斎と称し狂歌師として幾冊かの著作を残しています。文久二年(一八六二)年天狗党騒擾事件の最中、八七才で没しました。

「小江戸・おにぎりや」  
週末開店・油茂前(香取街道)  
○工学院・東京大学チーム  
「ぐるぎ十(ぶらす)」古着販売  
八月八日(金)オープン  
井上屋材木店

お茶をぐちそうに

去る六月十六日に家内と佐原をお訪ねした折に「休んでいきなさい」とのお言葉を受け、由緒ある会館でお茶を戴き、色々佐原のことをうかがいました。皆様の心暖まるご親切な対応にとってもほっとしたものです。ありがとうございました。

(牧野さま)

私達もボランティア

過日の真壁町並み案内ボランティアの研修の際には、ご多忙中にもかかわらず、格別のご配慮をいただき厚くお礼申し上げます。

小野川沿いの町並みに柳の葉が風にゆれ、なぜか遠く江戸時代にタイムスリップしたようなほっとする心とむひとときを感じることが出来ました。

七月と十月の祭りにはぜひ佐

### 平成19年度 佐原町並み交流館

入館数	
17年度	69,046
18年度	86,084
10万人を突破	
19年度	101,414
(うち外国人数 686)	

施設利用状況 (二階研修室利用)	
一般利用者数	10,086
減免利用者数	2,170
総計	12,256